



森林と人を 生かす知恵 159

種を撒き続ける

「見えにくいものに働きかける」森林環境教育という仕事

岐阜県立森林文化アカデミー 教授 ● 萩原・ナバ・裕作

「お忙しいところ突然の連絡お許しください」

先日、そんな言葉で始まるメールが届きました。実習の一環として20年近く続けている子供向け自然教室「もりもりキャンプ」の過去の参加者からでした。

森林環境教育という分野は、森林文化アカデミーの他の専攻(学部)が扱う林業や木工、木造建築のように、「カタチのあるもの」を相手にするのではなく、「子どもや大人の「気持ち」「価値観」「感性」「考え方」といった「カタチのないもの」にとことん寄りそい、成長を応援していく仕事です。



だからその成果や結果は、全くと言っていいほど見えません。それだけに、この活動の効果や成果を、一般化したり、他人に伝えたり、残したり、価値をつけたりするのが非常に難しい分野でもあります。

そうした中、今回のような手紙をもらうと「やり続けてきてよかった」と純粋に嬉しいのです。成果を初めて確認できるからです。そして何よりも最高の「ご褒美」でもあるのです。この喜びをぜひともシェアしたいと思い、今回、差出人本人から許可を得て、メールをご紹介します。

現場の皆さん、学生の皆さん、あなたが撒き続けている種も、しっかりと芽を出しているはずですよ。そしてメールをくれたNさん、本当にありがとう。いつか森で再会できるのを楽しみにしています。



(以下原文ママ/写真はイメージです)
お忙しいところ突然の連絡お許しください。

初めまして！

で、始めようと思ったのですが実は何度かお会いしたことがあるんですよ。

覚えてらっしゃらないと思いますが、森林文化アカデミーで開催されていたもりもりキャンプの常連だったNと申します。小学生のころからそちらに通い始め、今では19歳の大学生になりました。お久しぶりです、お元気ですか。

今回は一方的に感謝の気持ちを伝える為だけに連絡させていただきました。もりもりキャンプに参加して森が大好きになった私は、将来も森に関わる仕事がしたいと思い、現在大学で森林保護、森林生態を専門に勉強しています。海も山も楽しみたいと欲張った結果、R大学に通っております。

高校時代、理系に進んだはいいものの進路に迷っていた中、もりもりキャンプとNさんの存在が森林関係の仕事をしたいという気持ちを強くしてくれました。自然あふれる今の環境は本当に楽しくて、きっかけをくださったNさんには凄く感謝しています！ありがとうございます。



もりもりキャンプは私の人生の中で大きな存在で、子供のころにあんなに素敵な経験ができたことは宝物です。大学でもこの先どんな仕事をしようか決められないのですが、自然と人をつなぐインタープリターのようなお仕事ができればいいなと思っております。

特に子供たちに、あのころ感じた新鮮な感動を届けたいという気持ちがあります。これからも学びを止めず頑張りたいと思っておりますので応援してください！

最後に、つたない文章、また、直接会って伝えられなくて申し訳ないです。自然を相手にするのは大変ですが、Nさんもご愛ください。いつかまたお会いできるのを楽しみにしております。

R大学 農学部 AN学科
森林環境コース Nより

